

長畝ふるさと通信

【2013年1月号】

■ 新年明けましておめでとうございます

「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」をご愛顧いただき、ありがとうございます。昨年6月には待望のトキのヒナも誕生し、24年産米についてはこれまでにない豊作となりました。私たちにとって朱鷺はまさしく幸運を運ぶ鳥となっています。現在では集落のあちらこちらで日常的にトキを見られるようになりました。田んぼには餌を探して歩き回るトキの足跡も見ることができま



す。また、トキのみならず、サギなどの大型の鳥たちも増えてきています。環境保全型農業に地域を挙げて取り組んだ結果、たくさんの生きものたちが田んぼに帰ってきたといえます。米の販売環境は年々厳しさを増しており、豊作とはいえ諸手を挙げて喜んではいられない状況でもあります。日本人は「お米でできている」と信じ、今年も頑張ってまいります。

■ ふるさと「長畝」の四季折々 <夏から冬>

● 空散防除・・・8月に入ると、ラジコンヘリを使ってカメムシなどの害虫防除を行います。ボクが小学校時代は大きなヘリコプターが家の上空をけたたましく飛び回り、何も知らない少年達はラジオ体操そっちのけでヘリコプターを追いかけて回し、農薬を頭からかぶって喜んでいたのでした。お盆頃には一斉にお米の白い小さな花が咲きます。



● **収穫の秋**・・・9月中旬、田んぼは一面黄金色。いよいよ収穫です。青空の下、コンバインのエンジンが一斉に田んぼに響き渡り、たわわに実った稲穂を刈り上げていきます。



トキの餌場となっている山手の湿地田は、コンバインが入っていけないため、総出で昔ながらの手刈りをしています。ぬかるんだ田んぼに足を取られ、泥だらけになっての作業です。以前は耕作放棄地になっていましたが、トキの餌場確保のために復田したところでした。「トキが来る間はやめられんな〜」と半ばヤケクソぎみな面々・・・。個人ではやれないことも、大勢でやれば続けられるということでしょうか・・・。

● **おけさ柿や大豆の収穫も**・・・稲刈りが終わると、間髪入れずおけさ柿の収穫が始まります。先月号で紹介したように、柿は老齢化などの理由で収穫放棄地が出るなど、深刻な後継者不足となっています。地域で支え合う仕組みをどう強化していくべきか、これからの大きな課題です。



大豆は収穫後、JAに出荷します。青豆は打ち豆にして販売しています。また、稲刈りが終わった田んぼはトラクターで耕耘し、残った稲株をすき込んで土に返します。

● **ひと休み**・・・12月になると農作業もひと休み。おけさ柿の園地では翌年に向けて1年で伸びた枝を詰める「剪定」作業が粛々と行われています。雪で覆われた田んぼは静まりかえり、春を待っています。

今年も1年、ふるさとの風景は変わることなく流れていくことでしょう。

